

# 教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)  
 予約購読料 1年分 5,000円  
 紙代のみ 3,500円  
 振替 00140 9 145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を  
 そえて、お近くのキリスト教書店  
 へお申し込み下さい。  
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546  
 FAX 03(3207)3918

発行人 内藤 留 幸  
 編集主筆 竹澤 知代志  
 印刷所 株式会社きかんし

40:日が暮れると、いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人が皆、病人たちをイエスのもとに連れて来た。イエスはその一人一人に手を置いていやされた。41:悪霊もわめき立て、「お前は神の子だ」と言いながら、多くの人々から出て行った。イエスは悪霊を戒めて、ものを言うことをお許しにならなかった。悪霊は、イエスをメシアだと知っていたからである。42:朝になると、イエスは人里離れた所へ出て行かれた。群衆はイエスを捜し回ってそのそばまで来ると、自分たちから離れて行かないようにと、しきりに引き止めた。43:しかし、イエスは言われた。「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。わたしはそのために遣わされたのだ。」44:そして、ユダヤの諸会堂に行って宣教された。  
 ルカによる福音書 4章 40～44節



聖ヶ丘教会創立120周年教会学校(2009年2月)

## 春 新 メッセージ

ルカによる福音書4章40～44節

# 神の国の福音を告げる



山北 宣久

### 混沌を神の秩序に

新年にまず聖書を手にする。その最初に目にするみ言葉それは創世記1章。「初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。」

改めて深い思いに満たされ「初めに」立ち帰らせつつ新たに遣わされる決意に至らしめられる。この聖句に日本基督教団を重ねた先人がいる。北森嘉蔵牧師である。教会制度の確立」という本の中でこう語った。「教団のことを考えるようになって創世記一章」

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。」との主イエスの教えのもとに生かされて生きる私たちは「神の国」と「神の義」の楕円を描きつつ、教会を形成することをもって神の秩序をもたらすのである。(前掲本146頁)

### 神の秩序

その「神の国」とは「神が支配している」という事実。神の支配が貫徹している生きた状態」と私たちは受止めている。

この神の国は静的なものではなく、動的な、ダイナミックな状況でとらえられるものだ。主ご自身、同じルカ福音書の中でこう語られたと記されている。「わたくしが神の指で悪霊を追い出しているのだから、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。」(11章20節)

従って、神の国というのは人間による人間の支配なくもあらわしているが、その点をはつきりさせるために主は言われた。「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならぬ。わたしはそのために遣わされたのだ。」

神共にいますという神の国の福音はいつも、いつでも、誰にでも伝えられなくてはならない。

生に於ても、死に於ても神の愛の支配はあらゆる人にも及び、死と滅びより導き出す。

このことをこそ宣べ伝える、伝道していく、このことであって、いやしも教えも意味を持つこととなるのだ。

### 動と静

神の国は動的。ダイナミックなものであって静的な世界でないと言ったが、その動的なものに与るために静的世界に入り、そこを通り抜けることは必須である。このバランスは大切だ。

42節にはこうある。「朝になると、イエスは人里離れた所へ出て行かれた。動的に立ち向かう時こそ退くことが必要だ。」

神の国は動的。ダイナミックなものであって静的な世界でないと言ったが、その動的なものに与るために静的世界に入り、そこを通り抜けることは必須である。このバランスは大切だ。

42節にはこうある。「朝になると、イエスは人里離れた所へ出て行かれた。動的に立ち向かう時こそ退くことが必要だ。」

### 三つの働き

群衆 集団を相手にして行かれた主イエスは、その中にいる一人一人を大切に、丁寧に相対された。キルケゴールは、「五千人の給食」に触れて、「主は五千人を一度に愛したのではなく、一人を五千回愛したのだ」と言った。

一人一人を受容れ愛する、それが福音的ということだろう。

### 神の国を告げる

主イエスはこうして神の国の福音を告げ知らせることを使命としておられたことが明確にされる。そして主に従う教団は主

## 荒野の

「明治の最初は和魂洋才。大正はモククリ、戦後はアメリカ援助、日本伝道は常に「クリ」のおまけで勝負してきた。しかし所詮おまけには至らない。今また、伝道不振だからと、新しいおまけを開発することに躍起になっているように見える。しかし、今度こそおまけではなく、本質で戦わなくてはならない。おまけの通用しない今こそ、千載一遇の伝道機会だ。」

或る教団の研修会で、素晴らしい説教に出会い、心を揺り動かされる思いがした。ため息とともに「アメン」と言った。旅行先の土産物屋で、小さな「ダのお菓子が目に入った。3cm程の透明な小袋に丸い「が」が二つ、目鼻が付けられ、それだけで可愛らしい。値段も高くない。教会学校今年最初の礼拝、出席率は10%。出席簿の脇に血を置き、何の説明もなく、かの「ダ」のお菓子を盛った。登校してきた生徒たちが、悲鳴めいた声を出して喜び、上級生の子が、「シールを貼たら一個「ダ」が貰えるよ。勝手に「ダ」が出来た。礼拝中に食べる子は、勿論一人もいない。冬休み中にと、普段より出席が少ない礼拝後、「もう一個ずつ取ってもいいよ。みんな大喜び。心から感動した説教の主旨と真反対のことをしてしま

(教団総会議長・聖ヶ丘教会牧師)

# 東京教区西南支区2010年新年礼拝

## 新しい年の歩みに主の御守りを祈りつつ

主なる神に礼拝を献げることから新しい年をはじめめる教会や、地区、支区は多いことと思う。西南支区も、毎年1月1日に新年礼拝を献げてきた。支区内にはそれぞれ教会で新年の礼拝を献げる教会もある。そのよきな教会の多くも各教会での礼拝を終えて午後2時からの支区新年礼拝に集ってくる。

東京教区西南支区は、渋谷、世田谷両区と港区の一部にまたがる伝道地域に45教会、5600名の現住陪餐会員、3200人の人たちが毎主日に礼拝を献げている。渋谷という町を中心に、おもと山手線沿線、銀座線、半蔵門線、日比谷線といった地下鉄沿線、田園都市線、京王線、小田急線沿線に教会が広がっている。支区の集会は、自ずと各線のターミナル駅となる渋谷駅周辺の教会が会場となることが多い。

今年の新年礼拝も、渋谷の中心に建つ東京山手教会が会場となった。昨年11月には、この東京山手教会を会場として、950名の人々が集まり日本伝道150年を記念して信徒大会が開かれた。そのときの熱気をまだ会堂に残しているような中

で、また御子の御降誕に感謝を献げたクリスマス喜びが続いている中で、新たな年を迎えて、過ぐる年に主が与えてくださった大きな恵みに感謝し、またこれからは、まる新しい年の歩みに主の御守りを祈りつつ新年礼拝を献げた。

新年礼拝では、支区内諸教会牧師、教務師たちが召されて説教者として立てられる。今年、中渋谷教会牧師であり、また副支区長である及川信牧師が説教者として奉仕した。説教題は実にストリートに「罪を赦していただきなさい」。

キリストが洗礼を命じられる大伝道命令と、エマオでの聖餐の食卓、そして聖霊降臨によって弟子たちが教会とされて、ペトロが大胆に説教を語ったことにつながり、罪の赦しを基点として力強く解き明かした。

西南支区の新新年礼拝では、聖餐を守り続けてきた。教会が礼拝会場となる場合は、会場教会が聖餐準備をし、青山学院、恵泉女学院、東洋英和女学院といった支区内のキリスト教学校を会場とする場合は、近隣教会が協力して聖餐器具を持ち寄り聖餐準備をしてこの食卓を守ってきた。

新年礼拝には400名ほどの会衆が集まる。教団内での規模の聖餐が守られるのは、教団総会で守られる聖餐に次ぐ大きさではないだろうか。聖餐司式は会場教会牧師が執り行うことが通例である。今回の会場教会の長崎哲夫牧師は、洗礼を授けられた者が聖餐に与ることを明らかに告知したうえで聖餐を執行した。これだけのキリスト者たちが聖餐に与る様子は壮観である。

渋谷はこ存じのように文化、商業の町であり、多くの若者たちが集う町である。東京山手教会の前を多くの人々が行き交う。礼拝の間も公園通りを大きな音楽で宣伝する車が走り来る。一駅隣りには明治神宮があり、同じ日に日本一の数の参拝者が訪れる。

これらまだ教会に足を踏み入れたことのない人々に比べるならば400人ほどの会衆などいかにばかりであるうか、とも思われる。しかし御言葉によって、聖餐によって、天につながる希望、神の国の希望を聞き、味わうことは、たとえ量的比較では小さいとしても、信仰によって受け取ることには比較できないほど大きい。天において開かれる食卓がどれほど大きいものであるか、との思いである。

天の食卓が開かれるまで、キリストが十字架においてひとつの欠けもななく果たしてくださった罪の赦しを、主が宣べ伝えるようにと命じてくださった神の国の福音を、この町に、日本に、アジアに、世界に宣べ伝えてゆく志を日本伝道151年の年、最初の日に新たにした礼拝であった。



御言葉と聖餐により、伝道の志も新たに



東京山手教会の正面入口より

伊予長浜教会(算牧人牧師)の綺麗な会堂

日本伝道150年を記念する集会在、東京山手教会、青山学院を会場に開かれ、大盛況であったことは、新報でも紹介した通り。しかし、集會・事業はそれが全てではない。全国各地で、様々な工夫のもとに、特色あるの収穫でもあり、豊かな実りが与えられた。

舞台を提供したのは、その一つは、日本伝道

# 証しと讚美と落語のつどい

## 四国・伊予の地で伝道キャラバン...



伊予長浜教会(算牧人牧師)の綺麗な会堂

会(代表・小島誠志松山番町教会牧師)主催による日本伝道150年記念四国大会、6月19日(金)21日(日)、伊予の諸教会を舞台に展開された。舞台と言ったのは、今回の企画と講師の顔ぶれに依ったもの。各地で「証しと讚美と落語のつどい」を持った。そのタイトルを披露したのは、落語家故郷の五郎兵衛師匠の妻・明田川紗英さん、夫妻の次女・菅原早樹さん、長女・露のききょうさん(出番の順)。

そもそも、10年間にわたり上方落語協会会長を務め、数々の賞に輝くなど、上方落語会の重鎮であり、世界福音伝道団栗東キリスト教会の会員である露の五郎兵衛さんを迎え、その話芸と信仰に触れるという企画だったが、彼の急逝により、計画は一端潰れた。

しかし、妻と娘たちが故人の遺志を継ぐようにして、四国伝道は実現された。信仰の種まきであり、また故人が遺したものの収穫でもあり、豊かな実りが与えられた。

舞台を提供したのは、その一つは、日本伝道

日土教会(出席約50名)、新谷伝道所(出席約50名)、松山番町教会(出席約100名)、日土、新谷では、あらゆる機会を通じて、過去最高の出席者だったのではないかと、う声を聞いた。

演目(?)は、名前を上げた順に、証し・夫・露の五郎兵衛の生涯と信仰、讚美「ミニオンサー」(GOOD BLESS <OCC>、福音落語「教会根問」。

ききょうさんは、落語の枕で、テレビドラマでいろいろな脇役・端役を演じた経験をおもしろおかしく披露し、NHKの「朝ドラ」にも出演予定であることを話していた。紗英さんの証しこそ、「朝ドラ」の原作に相応しいと思わせる内容であった。家計を支えるために幼い時から働き、同時に本への憧れ、そして向学心を押さえずに、定時制高校に学んだ。貧しさにも試験にも病にも負けずに、倒れそうになっても、倒れてしまっても、投げ出すことなく立ち向かっていく姿に、惹き付けられた。証しを聞いた後で、著書「おかげさんで」を読んだが、一晩で一気読み終え、もっとゆっくり味わって読むのだったと、何だかもったいないような気持ちになった。五郎は生涯未完成・芸と病氣とイェスさまも、続けて読んでしまった。2冊の本に取り上げられているエピソードは、かなりの部分重なっている。一つの出来事を、夫婦それぞれの目で見直すようで、却って興味深かった。

多くの、家庭、地域、社会が捨ててしまったもの、忘れてしまったものが、上方芸人の世界に残っていることに、清涼感を覚えた。清貧という死語を、思い出した。

一家で最初に信仰に目覚めた早樹さんの讚美は、なるほど牧師夫人滋賀県栗東教会、讚美が同時に証しであり、最も困難と言われる家族伝道が実ったことに納得がい

両親の著作また本人の証しに垣間見られる早樹さんの物語は、なかなかドラマチックだ。若い時に女優を志願したそうだが、人生そして信仰生活を、ドラマチックに熟演していると映った。女優・落語家として活躍しているのが、双子の姉の露のききょうさん、去耳にする機会がなかった。最初、違和感を覚えないでもなかった。異質なものを二つ無理に結び付けて、破綻しないものか、しらと危惧した。しかし、観客(?)の評判も上々、自分の信仰を客観的にしつも余裕をもって振り返ると、得難い機会を与えられた。

寄席のない地方のこ

と、生の落語を初めて聞いたという人が多かった。初めて、福音を聞く人にも、落語は有効かも知れない。

既に記した五郎兵衛師匠の本には、常打ちの寄席がなかった大阪で、かつて島之内教会を会場に「島之内寄席」が打たれていたことに触れられている。

21日(日)には、この企画に参加した牧師たちが、それぞれ伊予長浜教会、松山番町教会、小月教会で説教を担当、特別伝道礼拝が守られた。



大洲教会の新谷伝道所で。前列左から、松井暁郎牧師(大洲教会、日土教会)、隣が明田川紗英さん。

(渡邊義彦報)

# 主題や講演者の絞り込みなど詳細協議

## 第3回二国間協議会実行委員会

第36総会期第5回スイス・韓国協約(合同)委員会、第3回二国間協議会実行委員会として、2009年12月1日、教団会議室で開かれた。



左から、石田周介韓国協約委員長、秋山徹スイス協約委員長

ことだ。2カ国であり、更にそれぞれの国に2、3の窓口となる事務局があり、それらの調整が求められるところにある。すでに、スイス側の都合によって、開催予定が2011年に順延している。それに基づいて日程の調整が続いており、7月第1週か第2週の最終結論に達していない。協議会は、広く多くの方々の参加と理解を期待して、カンファレンス形式とすることは確認されている。

## 恵まれた集会・事業に感謝

### 日本伝道150年記念行事準備委員会

2007年12月以来準備してきた「日本伝道150年記念行事」が、諸教会の協力のもとで行われ、それぞれ大変恵まれたものとなったことを感謝します。柱は次の3つです。

- ①日本伝道150年記念日本基督教団創立記念日礼拝  
6月24日(水)に富士見町教会で、山北宣久教団総
- ②日本伝道150年記念大会  
11月23日(月)に青山学院講堂を会場に、午前の部は礼拝、午後の部は記念式典として行われ、1500名の出席がありました。式典においては、2つの講演、2団体による音楽演奏、信徒会作成の記念映像などがあり、大会宣言がなされました。
- ③記念出版  
前日の22日(日)午後6時より、日本伝道150年記念信徒大会が東京山手教会において行われまし

た。これは東京信徒会を中心とする実行委員会によって計画され、当委員会の主催と位置づけられたものです。全教区より、950名が集い、会場は超満員となりました。22、23両日の集いが教団としての「記念大会」です。

この150年の記念行事には反対の表明もなされていましたが、その理由とされているベッセルハイムの琉球伝道のこと、これらの行事を通して改めて覚えることができたと思えます。また、この事業のために



困難な事業を成し遂げ、達成感、安堵感漂う

## 京都 宣教連帯への取り組み

望月修治

京都教区では謝儀支援制度の見直しを3年間の検討期間を経て、2009年4月より「教会謝儀支援制度」として新たな連帯支援を行っています。謝儀支援の申請教会がここ数年増えてきており、限られた原資の中で宣教現場の必要に添えていく体制の確保が宣教連帯の内実に関わる課題としてあります。各教会への負担金の軽減を一方で実施しつつ、教会相互の支援体制を検討する必要があります。

## 教区コラム

京都教区は謝儀支援制度も含めて教区の「宣教連帯」を進めていく上で、教区の機構、財政の在り方を見直し、教区改革の可能性を検討する作業を始めています。その検討作業のベースになるのは「教区宣教基本方針」であり、これを尊重し、対話することを大切にしています。その中で、社会への責務を果たす。京都教区にある諸教会との連帯を深め、さらに世界の教会と共なる歩みを進めたい」と記されています。歴史に生きる教会として、その時代、時代の宣教の諸課題に向き合い、粘り強く取り組むことが求められています。諸課題と取り組む、宣教連帯を推進していくにあたって、それぞれの立場と思想を尊重し、対話することを大切にしています。そして合同教会としての在り方を語り合い確かめながら、教区を歩み育み続けたいと思っています。

(京都教区総会議長)

## 今後の養成課程・認定制度を検討

### キリスト教教育主事養成に関する検討委員会

第36総会期第3回常議員会で設置が承認された表記委員会が2009年12月1日、教団会議室で開催された。出席者は、委員として選ばれた5名、木下宣世招集者、向井希夫、小林貞夫、岡本知之(信仰職制委員長)、黒田岩雄(教育委員長)と担当幹事・野村和正。

長に木下宣世、書記に向井希夫を選任した。次に当委員会の役割について考えるためには、現在のキリスト教教育主事養成の歴史、聖和大学における養成の実態について理解する必要性が確認された。その上で聖和大学が関西学院大学と合併したことにより、日本において唯一養成を担ってきた「人文学部キリスト教学科」が2009年度から募集を停止している中、日本基督教団として、今後養成課程をどのようにしていくのかを、認定制度と共に検討し、常議員会に提案することが最終目的である。

キリスト教教育主事養成の今後については、前期・第35総会期教育委員会が聖和大学と協議を行っていた。しかし、十分かみ合わないまま、その協議は頓挫

してしまい、最終的に常議員会にゆだねられ、当委員会が設置されるに至った経緯がある。そこで交わされた文書を担当幹事がそろえ、流れを理解するために委員は目を通しておくこととした。

当日は、2008年11月12日付け聖和大学学長名の文書を読んだ。そこで、半世紀にわたり、日本基督教団との協力と連携によって

## 消息



赤羽カツ子氏(隠退教師) 09年5月20日、逝去。101歳。広島県に生まれる。30年救世軍士官学校を卒業。同年救世軍大阪京町堀小隊に赴任。静岡、大連、河口、奉天、大連育児婦人ホームで伝道牧会に携わり、68年みぎわ教会に赴任、79年隠退した。

(藤掛順一報)

# 宣教師からの声

## 福音主義教会の伝統・柔軟性・バランスを大切に

岡田 直丈

(ベルギー・ブリュッセル日本語プロテスタント教会牧師)

私は主の導きによつて2006年春より宣教師として約6200人の日本人が在任しているベルギーに派遣され、ベルギー福音宣教会(BEM)という福音派のグループに所属し、首都ブリュッセルでフランス語教会を借りて日本語教会を開始しました。それ以前は24年間1回日本語礼拝が守られてきた集会所でした。ブリュッセルはヨーロッパ連合(EU)の中心地でたくさん日本企業が進出しています。生活費は今のところ4分の3は日本の諸教会の支援会の

在銀行員の男性2名)を行い、教会開始から3年間で4名の受洗者が与えられました。本教会の構成員は、国際結婚・現地組と数年に入れ替わる駐在員・留学生組から成り、信徒約15名、求道者約5名、CS生徒約10名で、礼拝出席者数は15〜20名です。

ヨーロッパには約20の日本語教会、約10の集会所がありますが、現在日本福音教会からの派遣宣教師は4名で、その他の殆どは福音派の教職です。経済的に自立している教会は2教会(ロンドン、デュッセルドルフ)だけで、その他は殆どが日本から派遣されている宣教師が伝道牧会しています。本教会並びにヨーロッパの殆どの日本語教会は、「超教派単立教会」なので、教会メンバーは日本福音教会の他に様々な教派的背景の人がおり、その多くが福音派です。このような福音派がメインであるヨーロッパ全体の超教派の交わり(約200〜300名集まる「キリスト者の集い」、約50名の青年が集まる「青年トリート」、欧州日本語教会、集会教職者研修会など)と各個教会内のそれが、信仰と伝道牧会に力を与え、豊かなものになっているのが、ヨーロッパの日本語教会の特色です。また、海外の日本語教会は、開放的家族的雰囲気がある中で、求道者・受洗者が比較的多く与えられており、日本伝道の一環を担っています。

しかし、それ故の難しさもあり、単なるコミュニケーションにならないよう教会としての本筋を保ちつつ、今日の前にいる未信者・求道者を信仰に導き、様々な背景を持つ信徒を配慮し、帰国後も教会に繋がるよう気を配らなければなりません。そこで私は、本教会の信仰と伝道牧会と教会形成において、「福音主義教会の伝統」「柔軟性」「バランス」を大切にすることを心がけるようになり、「柔軟性」「バランス」を大切にすることを心がけるようになり、神学的教理的には「宗教改革者・改革派の伝統」を基盤として、「信仰告白・教理・教会秩序」を重んじ、月に一度は子供と一緒に「ファミリー礼拝」を行い(伝道礼拝にもなる)、礼拝に「ワーシップソング」も取り入れ(青年伝道に必須!)、説教に証しやジョークも入れ(親しみやすさと明るさも大切に!)、教会の門戸を開くために年に一度は伝道コンサートを行い、年に数回持ち寄りの愛餐会や毎月婦人会と青年会それぞれで愛餐会をしています(交わりが豊かになり、伝道に繋がる)。

私は宣教師・海外日本語教会牧師になって、交わりと視野が広がり、皆様の祈りに感謝!

皆様による経済的支援、残りは日本語教会メンバーによる献金によって成り立っています。そういう訳で、私は07年夏に10週間日本に一時帰国して約40教会、09年秋には8週間約50教会で宣教師デモンストラクション(礼拝・集会奉仕、宣教報告)をさせていただきました(今後は2年毎)。

私たちの教会は、07年のクリスマス礼拝で初めての洗礼式(音楽留学生と研究者の女性2名)、09年のペンテコステ・教会創立3周年記念日礼拝で2度目の洗礼式(駐



上/夫人が書いた紙芝居によるファミリー礼拝。



下/青年の讃美リードによる「クリスマス・ファミリー礼拝」

## 支え祈る教会を目指して

陸前古川教会献堂式

2009年11月29日(日)、日本基督教団陸前古川教会(宮城県・東北教区)の会堂・一部園舎の献堂式(感謝式)が行われた。

陸前古川教会は2008年6月14日の岩手・宮城県内陸地震によって建物に深刻な被害を受け建て替えを余儀なくされた。保育室のみ必要十分な補強をし、新しい会堂建物建設の建築計画を立てた。今回建て替えられたのは礼拝堂とホール、幼稚園事務所など。

外観は、消しの黒い外壁と木が多用されたデザインで、落ち着いたモダンさを感じさせる。既存の園舎と一体化させることで、雨の日に廊下が雨ざらしになることも防げるようになった。隣接地に建った病院のため、日が射さなくなっていた園庭も敷地の前部に移した。日照を確保した。

(辻順子報)

当日は教会員、幼稚園関係者、地区・教区内の関係者など100名以上の人が集まり、感謝の時を持った。礼拝では開純一牧師が「自分達がこんなに祈られ支えられたことは驚きと感謝であり、申し訳ないことだった。申し訳ないままでいるつもりはない。支えられた私たちが今度は支え祈る教会になりたい」と涙ながらに語った。

建物が増えたとはいえ、これで建築が終わりはない。なお900万円の借金返済が残っている。しかし、建物が増えたことを希望として、これからも一致団結して歩んでいくことが確認され、教会員一同が感謝の讃美歌を歌って会は閉じられた。



教会員による感謝の讃美

振替口座 02250151106446  
加入者名 宗教法人日本基督教団陸前古川教会



藤盛 勇紀さん

## 総務幹事に就任



1962年埼玉県生まれ。東京神学大学大学院卒。藤沢北教会牧師。神奈川教区書記・副議長を歴任。

昨年7月の第2回常務委員会で辞意を表明し、役員会で辞表受理が決まった愛澤豊重前総務幹事の後を受けて、9月、急遽登板した藤盛勇紀さん。牧会する藤沢北教会の他、神奈川教区書記を務めているため、本年3月末までは週3日の嘱託幹事となつた。

就任後3ヶ月余の感想を聞くと、「いわば非常事態に登板し、通常の引き継ぎもなかったため、残された資料を読んで把握に努め、ようやく事務局全体のことろが分かるようになった」といふ。

総務幹事は、全国1700余の諸教会の教会規則の制定・改定、教師の異動など教務関係全般を見る他、信仰職制委員会、

伝道所検討委員会、能登半島地震被災教会再建支援委員会、日本伝道150年を担当している。昨年11月までは150年関連で忙しく、週によっては、教会の仕事の合間を縫って毎日出勤した。

教団新報編集委員も務めてきたから、比較的身近で幹事職を見てきたが、いざ自分がその職についてみると、想像していたよりずっと大変なことが多かった。自立出来ない教会が多く、教区間格差が広がっていることを感じた。

教会規則の変更を直接教団に相談する教会もある。法人を含め、教会諸手続きの扱いが、教

西早稲田にある日本基督教団事務局は教団の教務執行機関で、管理責任者として総幹事が立てられています。

総幹事の任務は教規50条に定められています。まず、教団の最高決議機関である教団総会と常務委員会の議決事項の執行に当たるほか、両会議の審議に必要な調査を行い、予算案の編成や諸議案の整理などに当たります。その他教団の3つの業務機関(出版局・年金局・部落解放センター)と宣教研究所を所轄し、教団の教務の円滑な遂行をはかります。

その総幹事の教務執行を助ける幹事は、総幹事の推薦に基づき常務委員会の議を経て教団総会議長が任用します。幹事は事務局内でそれぞれ担当部門の仕事を行います。

決議機関である6つの常設委員会(宣教・予算決算・世界宣教・教師・信仰職制・教師検定)と3つの常設専門委員会(伝道・教育・社会)のほか8つの小委員会と常務委員会が設置した7つの特設委員会に係わり、決議の執行に当たる必要とする調査・資料の整備に当たります。

その他教団諸教会や教区の教務一般、宗教法人関係業務、内外諸教会・諸団体との渉外に関する事項なども事務局の担う大切な役割です。

(教団総幹事 内藤留幸)

## 教団事務局とその役割とは?

事務局には総幹事室(主として広報担当)のほか総務・財務・宣教・世界宣教の4部門があり、そこに幹事(現在6名)とその補佐役の職員(現十数名)が配属されています。その主たる仕事は教団